「アップデイトふくしま」声明

【序文】
2011 年 3 月に起きた東日本大震災とそれに続く津波、福島第一原子力発電所事故という未曽有の大災害により、直接的・間接的に多くの人命が失われました。特に福島県においては大規模長期避難や精神的ストレスなどにより、直接死以上の災害関連死が引き起こされています。それだけでなく、福島に対する歪んだイメージにより、偏見やいじめ、差別といった風評被害が県内外の福島に関わる方々を苦しめています。
　このような状況を踏まえ、私たちは福島の風評被害を払拭するために「ふくしまのイメージ」をアップデイト*することが必要と考え、以下の提言を行います。
　*アップデイトとは過去を忘れることではなく、過去の経験を土台としつつ最新の知見を積み重ねることです。

【本文】
　「ふくしまのイメージ」のアップデイトのために、私たちは以下の姿勢で、常にかわりゆく福島のことを知り、自分自身も学び、伝えそして、新しい社会づくりに向かって進んでいきます。

１　いまも福島への誤解、偏見、それに基づく差別は根深くあります。この問題を解決するために、例えば、「被曝による遺伝影響はない。安心して子どもを産めます」という科学的事実を、教育などを通して共有していくことが必要です。

２　一方、そういった科学的・数値的な話しだけでは解決しない問題も存在します。個人の不安にアプローチするには、互いに信頼をして学び合える顔の見える関係、集団での取り組み（集の学び）を皆で支え合っていくことも必要です。それだけではなく、国内外の様々な人に幅広く伝えていくようなアプローチも必要になっています。

３　同時に、福島について語る時に、様々な境界線ができていることも直視すべき課題です。東京と福島、外国人と日本人、世代間だけでなく、被災の悲しみや葛藤、様々なことを乗り越えてきた経験を持つ方と持たない方の間にも境界が存在します。そういった中で、誰もがその経験を自分事と考え、立場を超えて福島を語れることを大切にします。

４　さらに、福島では新たな魅力や、「新しい社会づくりのヒント」が生まれています。それは福島の外で、世界で価値を持つものでもあります。その点を積極的に伝えていくべきだと考えます。例えば、様々な立場の人への教育旅行・研修等の学びの場となるよう様々な試みをしていく、若い人が地域の未来を考える取り組みをしていくなどの知見を福島発のモデルとして発信していきます。

For FUKUSHIMA から From FUKUSHIMA with Youth へ。
確信をもってふくしまの核心を学び、伝える。その中で革新を生み出していきます。

2018 年 2 月 10 日　アップデイトふくしま実行委員会

※本声明は会場参加者からのご意見や事前質問を考慮し序文を付け加え「宣言」を「声明」にいたしました。また議論の基本的な軸は守りながら発言の趣旨をわかりやすい文言に修正いたしました。